

J A M 政策NEWS

【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】社会政策局

03-3451-2586

E-MAIL : syakai@jam-union.or.jp

年金関連法案、可決・成立

本日午前9時30分、参議院本会議で年金関連法案が可決・成立しました。参議院本会議は、午前7時30分から再開されましたが、民主党、社民党は散会宣言されたとして欠席。共産党のみが出席しました。

連合・草野事務局長は談話の中で「政府・与党

の責任を徹底的に追及し、参院選勝利を目指して闘いの輪を広げていく」と決意を述べました。

またJAM・小出会長も改悪法案可決・成立に抗議する談話を出し、「勤労者の立場に立った政治を取り戻そう」と訴えました。

年金制度改悪政府法案の可決・成立に抗議する

J A M

会長小出幸男

自民・公明両党は6月5日朝、参議院本会議を一方的に開催し、保険料を段階的に引き上げ、給付も引き下げる年金制度改悪政府法案を可決・成立させた。これは、参議院副議長によって4日からの徹夜本会議の散会手続きが行われたにもかかわらず、不信任決議案が出されている議長が登壇してその手続きの無効を宣言するという、前代未聞の事態の中で行われた暴挙であり、議会制民主主義の原則からしても許しがたいことである。

政府法案のまやかしが明らかになる中で、政府法案の説明を回避して、数の力で成立を急ぐ自民・公明の与党に対し、民主党など野党は、4日の参議院本会議で長時間演説や牛歩などで抵抗したが、廃案に追い込めなかった。3日の参議院厚生労働委員会では、質問予定者が残っているにもかかわらず、一方的に審議を打ちきってきた。自民・公明の与党が、多くの国民が反対する法案を、審議が不十分なまま強行に可決・成立させたことは、国民を無視した暴挙であり、JAMは断固抗議する。

国会審議の過程で、民主党議員などの追及により、政府が主張する「保険料は固定、給付水準50%維持」はまったくのまやかしであることが明らかになった。また、参議院の厚生労働委員会で民主党議員による「マクロ経済スライド」の質問に対して、小泉首相は「年金水準は物価スライドで改定される」と応えるなど、まともな答弁ができなかった。「マクロ経済スライド」は、給付を自動的に引き下げていく政府法案の骨格になっている。首相が政府法案内容を理解していないことは明らかである。閣僚や与党首脳の年金未納・未加入問題について何ら責任を取らないばかりか、このような全国民に関わる重要法案について、国政の責任者である首相が理解していないというのは、無責任の極みであるといわざるを得ない。しかも、「サラリマンの経験はない」「勤務実態はない」にもかかわらず、厚生年金に加入していた小泉首相自身の問題では、「人生いろいろ、社員もいろいろだ」と勤労者を愚弄する、開き直りの答弁を繰り返した。率先して法の秩序や社会の秩序を守る範を示すことができない首相は、その資格が問われて当然である。

公的年金は全国民の関心事である。今回の国会審議で、国民は年金不信のみならず、政治そのものに対して不信感を抱いている。政治に白けた国民が、ますます投票に行かなくなり、7月の参議院選挙の投票率低下が危惧される。投票率低下は、4月25日の国政補選に示されたように自民・公明両党を利することになる。

国民が政治・選挙から遠ざかれば遠ざかるほど、自・公連立による政府の暴挙が続くことになる。われわれはこのことを肝に銘じなければならない。この国民を愚弄した政治にストップをかけるためには、すべての有権者が選挙に行くことである。本当の意味で国民の、なかんずく勤労者の立場に立った政治を、われわれの手に取り戻そう。

そのために、まずなすべきことは、「津田やたろう」の当選である。3年前、私たちは「小泉旋風」の中で「にがい経験」をし、自民党だけで65議席獲得を許した。その結果が今日の参議院の状況をつくり出していることを、われわれは忘れてはならない。「津田やたろう」の当選によって、自民・公明両党の伸張をくい止めることができる。いかなる環境にあろうと、「津田やたろう」を当選させ、国民を愚弄する政治にストップをかけよう。JAMに結集するすべての構成組合は、組合員に対して投票に行くことを改めて訴え、「津田やたろう」の勝利を確実なものにしよう。それが、日本の政治を変える第一歩である。

以上